

母の講座について

恩賜財團母子愛育會
愛育研究所員

村山貞雄

父母の教養をたかめるために、幼稚園又は父母の會で講座を開く事がある。講座の對稱は殆どすべて母親に限られてゐる。この母親講座は屢々「母の講座」と呼ばれ、稀に母親教室と呼ばれる事もある。

母親講座は講演會と異つて系統的な内容をとり扱う事ができる上に、母親の自發的な學習が可能であり、講演會が陥りやすい一時的なお祭仕事になる危険が少いし、講習會のように一邊に母親の時間を多くとる弊害がない。併し、講演會や特定の内容を持つた講習會と異つて、講師も母親も熱心さが少くなるおそれがあるから、常に斬新性を失わないように氣をつけねばならない。

(イ) 講座内容

母親講座の目的は、母の教養を増し、母親としての主要な資格、特に育児能力を増す事にある。講座の内容を選択するに當つては、この目的に副う範圍で、母親の多數の希望をいれるように心掛けるべきである。

即ち、まず第一に、教育目的の立場から、母親講座の内容

が考慮せられねばならない。その一つの方法として、幼児學校の教師に對して調査したところ、次の三種類の内容を答えた。その第一は、直接に育児に關する能力を揚げる講座である。例えば、賞罰の方法の如きである。その第二は、保育と關係のある母親自身の教養を揚げる、間接的に育児に資するものである。例えば、戰爭中は、時局認識に關する講座内容が多かつたが、戦後は民主思想の啓蒙に關する講座内容が多く「民主的態度と育児精神」とゆうようなものが、しばしば内容となつてゐる。又、音楽鑑賞について主張した教師もいる。この頻數は少いが、一人で多くの内容を列挙する場合は一つは擧げているものが多い。その第三は、第二の内容と似ているが、幼児保育に直接關係のないもので、母親が生活して行く上に必要性を痛感している技術を教えようとするものである。例えば、家計の知識や子供服に限らぬ洋裁の方法の如きである。この頻數は少く、年長の教師及び保育所の教師に比較的多かつた。故に、第三の内容には、次にみる母親の希望がすでに相當考慮せられてゐると考えられる。

このように、教育者が教育の立場から母親の缺點を考察し

て講座の内容を考える事が必要であるが、同時に、母親の體
 験と興味を参考にしてそれを充分にとりいれねばならない。
 例えば、教師に行つた同じ右の調査を母親に行つた所、表〔一〕
 のように第三種のを希望する者が多く、第二種のを
 希望する母親は比較的少い。(1)又、母親は具體的體験的な

表〔一〕

解答者 内容	教師	母親
第一種	42人	63人
第二種	10人	2人
第三種	6人	20人
計	58人	85人

して希望しているものは大體次の如きものである。

内容希望して
 多くの
 母親が講
 座内容と

A 教育方面

- (2)精神發達||發達の基準・注意を要する程度の發達の遲滯等
- (2)兒童心理の特徴||反抗の心理・遊戯の心理等
- (3)躑躅方||叱り方・性癖及び悪癖の矯正法・言葉遣い
 の問題等
- (4)文化財の與え方||おもちゃの選び方と與え方・繪本の選
 び方と與え方・金錢の與え方等
- (5)家庭保育の一般的な知識||質問の答え方・民主主義と家庭
 保育の關係・獨り兒の教育等

B 養育方面

(1)身體發育|| (特に乳兒の)發達の基準・注意を要する發育遲
 滯等

(2)醫學的な知識|| 徴候による病名の見分け方・發熱の手當法・
 夜尿の直し方等

(3)榮養|| ビタミンの話・簡單な榮養知識・代用食の知識等

(4)養育・體育の一般的な知識|| 齒の磨かせ方・夏休の避暑の
 方法等

C その他

(1)産兒制限 (2)洋裁 (3)社會知識等

併し、母親の講座に對する要求は、時代によつて異なるし、
 各幼兒學校では地域社會による特殊性があるから、夫々の幼
 兒學校で毎年、又は少くとも隔年に母親に對して調査を行つ
 て、その結果を参考にしなければならぬ。例えば、愛育研
 究所の附屬幼稚園⁽²⁾と附屬保育所⁽³⁾に對するこの種の調査の
 結果は、表〔二〕と表〔三〕の如くであつて、保育所の方の
 母親の言葉は、非常に漠然としており、講座に當つて入門的
 な事に入力する事が必要であると考えられる。それに對し
 て、附屬幼稚園の方では、興味内容が分岐してあり、相當專
 門的な事を欲しているように推察せられる。尙、産兒制限に
 ついては、一見、保育所の方の母親のみ關心が強いように見
 えるが、幼稚園の方も被調査者の性格條件を考えて、前者を
 他山の石として思案推量する力が必要である。
 以上のように、教育的要求と、現實の母親の缺陷、及び母親

表〔一〕

附屬幼稚園における母の希望	
内 容	頻 數
精神發達	一
精神發達の標準	一
精神發達の特徵	一
躰 方	一
怒りのしずめ方	一
反抗の扱い方	一
身體の發育	一
幼兒の榮養	二
幼兒の看護法	二
發熱と病氣の處置	一
人口問題	一
洋服の作り方	一
合 計	一四

表〔三〕

附屬保育所における母の希望	
内 容	頻 數
兒童心理學	二
家庭教育	一
子供の教育	三
保 育	一
躰 方	二
素直な子供の育て方	一
健康な子供の育て方	一
子供の衛生	二
育 兒	二
家庭育児法	一
産兒制限	三
社會學	一
洋裁の講習	一
知名人の話	一
合 計	二二

の興味を併せ考え、更に地域社會の特殊性を無視する事がないようにして講座内容をたてねばならない。
 このようにして、私が山陰地方のある町でたてた講座内容の案例を示すと表〔四〕のようである。

表〔四〕

開催月	内 容	講 義 者
四月	幼稚園保育とは	園 長
五月	幼兒の躰について	幼兒教育研究者 又は教諭
六月	下痢その他幼兒の病氣と手當の方法	園 醫
七月	園兒の夏休の過させ方(講義後)	幼稚園職員
九月	園兒の辦當の作り方(實習)	榮養士
十月	幼兒の自然觀察と科學教育について	教 諭
十一月	冬期における幼兒の衛生(講義後)	園 醫
十二月	カルタによる假名教育と繪本の與え方	幼兒文化研究者
一月	鯛の料理の實習(實習)	榮養士
二月	幼兒保育一年の效果の調査	園 長
三月	小學校に入るまでに	同町の小學校長

この講座計畫は一年の各時期を考慮に入れている所に長所がある。例えば、六月に夏の病氣、十一月に冬の衛生について

組んでいる。九月に辨當の實習を入れたのは、二學期から辨當を持つて來させるからである。又、一月に飼料理の實習を入れたのは、この地域の特殊性として、一月頃から飼が非常に澤山とれ、辨當のおかずに殆ど毎日のように飼を持つてくる事に着目したためである。いずれも講義後、質疑應答の時間を入れた。

一ヶ月に一回づつ講座を開けば相當効果をあげる事ができるが、更に、一ヶ月に二回づつ行う場合は一そう系統的に、例えば教養保健両面から充實させる事ができる。私が愛育研究所の附屬幼稚園でたてたプランは、效果その他事についてはまだ検討しておらないが、その典型的なものである。即ち、次の如きものである。〔表五〕

表〔五〕

年月	行事の名稱	内容(番號は母親講座の回)	擔當者
二・三・四	總會	入園式直後役員改選等	
同・四	講話	(1)幼稚園の教育について	園長
同・五	保健講話	(2)幼児の健康保育について	園醫
同・五	教養講話	(3)幼児の心の特徴とその導き方	心理學者
同・六	保健講話	(4)幼児の身の特徴とその導き方	園醫
同・六	保健講話	(5)幼児の夏の病氣について	小兒科醫

同・七	座談會	(6)園児の夏休の過ぎせ方	幼稚園
同・九	教養講話	(7)幼児の悪癖について	心理學者
同・九	保健講話	(8)幼児の榮養の與え方	榮養士
同・十	教養講話	(9)繪本とおもちゃの與え方	幼兒研究家
同・十	保健講話	(10)精神衛生とゆう事	醫師
同・十一	教養講話	(11)智能の話	心理學者
同・十一	講話	(12)幼稚園保育の經過	教諭
同・十三	座談會	(13)今までをかえりみて	幼稚園
二・四・一	教養講話	(14)幼児の學ばせ方	園長
同・二	保健講話	(15)子供の體質と學童期への注意	小學校醫
同・二	講話	(11)子供を小學校に入學させるに注意	小學校長
同・三	總會	卒業式直後謝恩會を兼ねて	

以上のプログラムについて講義のあとに質問の應答時間を用意すると講義の効果がずつと増す。必要な場合はプリントを利用するのがよい方法である。又、家事を持つ母親にとつて時

間が超過する時は非常に負擔となるから、特に外來の擔當者には時間が超過しないように念をおしておく必要がある。總じて、講義内容はできるだけ具體的なものにするのがよい。以上のように一月に二回ずつ行くと、形式的にも内容的にも系統的に充實した講座をする事ができるが、一方、母親の出席が悪くなる傾向がある。故に、もし母の講座を一月月に二回開く積りの場合は、入園児を選抜する場合、母親にあらかじめ承知させておくのがよい。母親が講座に熱心な事をもつて入園の條件とするのも一方法である。

(口) 講座方法

母親講座が成功するか否かは方法が適當であるか否かによる事が多い。さきに述べた一ヶ月の開催回数にしても一回にするか二回にするか、又は二ヶ月に一回にするかは、よほど考慮して決定せねばならず、二回にすれば二回にしたで、時間を短くしたり、ある程度強制的にするなど、又それに適當な方法を施さねばならない。このようにして適當な方法を得た後、母親の熱心な出席を得て、はじめて母親講座が成功するに至る。

母親講座の開催頻度は、教育上の要望と母親の希望を契機として決定せられる。

教育的にみた場合、一般的に多い事が望まれる。教師が保育効果のみを純粹に考える場合は一ヶ月に三回又は一週に一回母親に對して講座を開き併せて母親に保育の參觀をさせる

事を望む者が多いが、事務が多忙になる事をおそれる結果、この度数にブレーキがかけられる。そして、多くの教諭は一ヶ月に一回以下である事を望み、更に經濟的關心が強く教育的熱心度のうすい幼児學校になればなるほどその回数が少なくなっている。昭和十六年の調査によると、両親を對象とする行事の回数は表〔六〕のようになつて、一年に三回位しか開催しないものが多く、母の講座の回数はそれより更に低く全くないものも多い。故に、講座を開く場合は、事務の煩雜による教師の負擔をなるべく軽減する事が望ましいが、一方、教師は、幼児學校教育にとつて両親教育がきり離す事のできぬ教師の職分の一つである事を自覺しなければならぬ。

表〔六〕

一年の回数	校数	%
1回	29	9.4
2回	43	14.0
3回	45	14.7
4回	33	10.7
5回	31	10.1
6回	37	12.1
7回	17	5.5
8回	15	4.9
9回	19	6.2
10回	14	4.6
11回	7	2.3
12回	7	2.3
13回	2	0.7
14回	4	1.3
15回	1	0.3
16回	1	0.3
17回	1	0.3
18回	1	0.3
計	307	100

次に、母親の方の希望をみるに、二ヶ月に一回を望む者が多く、一ヶ月に一回の者がそれに續く。この希望回数は、その時代の社會情勢によつて母親が家事に多忙であるか否かに支配せられる事が多い。保育所の保育の希望回数の平均は、幼稚園の教諭の希望回数の平均よりも多いにかゝらず、保育所の母親の希望回数より少し事は注目に値する。この事は保育所は幼稚園よりも母親の出席に對して、一そう努力を要

する事を物語っている。

幼稚園においてもそうであるが、特に保育所においては、この種の調査をする場合、母親講座とはどんなものであるか、その内容について説明してかかる必要がある。

母親が回数少ない事を望む理由は、家事の多忙に原因している。特に、世話のかゝる子供がいる事が最も大きな原因となるが、両親が嫁の出席を喜ばない事も一因となっており、祖父母教育の重要性が感じられる。そして多くの母親が、必ず出席できるように、回数をなるべく少くしてほしいと主張する。

一方、回数が多い事を主張する理由は、その結果が、自分の勉強になるからとする者が多いのは當然である。従つて、講座の結果が、あまり勉強にならないと母親が考える時に、おのずから出席率が悪くなる事に注意しなければならぬ。開催時刻は、教師は午後を希望する者が多い。午後は保育と重ならないようにする事ができるために、午前程忙しくない上に講座を聴講する事ができるからである。

母親は、午前を希望する者と午後を希望する者がまち／＼で、一定の傾向が現れないか、大體の傾向として、保育所の方の母親は午後を希望する者が多く、園児の母親の希望は午前と午後が中ばしている。又、農村の母親には夕食後を希望する者が多いが、適當な場所さえあれば利點が多い。都市においてもこの希望が若干あらわれている。

母親が午前を希望するのは、主として次の二つの理由によ

る。その第一は子供との事情によるものである。即ち(一) 幼児と一緒に登園・退園などの行動かでき、又(二) 愛兒の保育せられる姿を參觀する事ができるからである。尚(三) ある母親にとつては、子供が幼稚園に行つてゐるから留守の心配をしなくても済むとゆう利益がある。理由の第二は、家庭の事情によるものである。即ち、午前は午後より來客も少く一般に用事が少ない。又皆が留守であるので出掛けやすいためである。稀に、配給が午前にある事を理由として述べる母親もある。尚、この他に頻度は極めて少ないが、第三の理由として、母親自身の事情によるものがある。即ち、午前のうちは頭が澄んでいてお話がききやすいとゆうのである。

次に母親が午後で開催する事を希望する理由は、主として家庭の事情による。即ち、午前中に用事を済ましておいて午後出掛けたい事を主張する者と、午後は留守番があるから出掛けやすい事を述べる者が壓倒的に多い。併し、午後開く場合は、殆どすべての母親が閉會が遅くなつて夕食の準備にさしつかえる事を非常に嫌つてゐる事に注意しなければならぬ。

夕食後を希望する者は農村に多いが、農村ではこの時間が母親、即ち一家の主婦にとつて唯一のひまな時間である事による。但し、この場合は、開會の時刻を守るように司會者が常に心掛ける必要がある。

開催の時刻は、學校で獨斷的に決める事なく、以上のような母親の希望を主として、それに前述の教師の希望を併せ考

えて決定しなければならぬ。母親の希望は、右に述べたように夫々の幼児學校でまち／＼でゐつて一定の傾向を捕捉しがたいから、それ／＼の學校で調査する事が必要である。

講座時間は、學校側は二時間を要求する者が多く、母親は一時間半位を希望する者が多い。母親の希望する時刻及び時間の調査結果例を示すと、表七と表八のようである。

表(七) 愛育研究所附屬幼稚園における母親の希望

時間(昭和二十三年)

時間	時刻	頻	數
一時間半	午前九・〇〇—二・〇〇		三名
一時間半	同 一〇・〇〇—二・〇〇		五名
二時間	同 一〇・〇〇—三・〇〇		八名
一時間	同 一〇・三〇—二・三〇		一名
二時間	午後一・〇〇—三・〇〇		二名
一時間半	同 一・三〇—三・〇〇		二名

(表八)

愛育研究所附屬保育所における母親の希望
時間(昭和二十三年)

時間	時刻	頻	數
一時間	午前九・〇〇—一〇・〇〇		三名
二時間	同 九・〇〇—二・〇〇		三名
一時間	同 一〇・〇〇—二・〇〇		一名
二時間	同 一〇・〇〇—三・〇〇		二名
二時間	午後一・〇〇—二・〇〇		五名
二時間	同 一・三〇—三・〇〇		一名
一時間	同 二・〇〇—三・〇〇		二名
二時間	同 二・〇〇—四・〇〇		二名
一時間	同 三・〇〇—四・〇〇		一名

一時間半から二時間位あれば、一應まとまつた講座を聞く事ができる、それに、教師と母親の希望を併せ考えると、講座時間は一時間半か二時間とするのがよく、二時間の場合は時間を厳守する事が大切である。

講座の開催場所は、(一)学校内で保育室その他の部屋で行う場合と、(二)適當な父兄の家を指定、又は巡回して開く場合と、(三)皆の親しい適當な場所、例えば、寺院や公民館などで開く場合がある。

學校で開くのが、種々の意味で最も無難であるが、適當な部屋が使えぬ場合は、第二・第三の方法によるより仕方がない。會員の少ない場合は第二の方法をとる事が多いが、父兄の家を會場とする場合、父兄同志の感情に無用な摩擦を起さぬように氣をつけねばならないし、當番の家に迷惑をかけぬようにする必要もある。會員が少くてもこれらのおそれがある場合、及び、集合人員の多く豫想される場合は、第三の方法によるのがよい。尙、公民館などで開けば、父兄以外の人々もききうる便利がある。

以上、母親講座の内容と方法を述べたが、その目的は、母親が講座に出席する事によつて育児知識を始めとする教養をます事にある。そのためには、講座内容を選択する事と出席率をたかめるように努力する事が大切である。母親が缺席する理由として、(一)家庭の用事によるもの、例えば、留守居がなかつたため、來客のため、行事例えば誕生日等のため、その他不意に用事ができたため、などが最も多く、(二)育児上の用事、例えば、子供が病氣のため、乳幼児があるため、子供が多いため、などの原因がこれに續く。更に、少數ではあるが、(三)本人の事故、例えば、病氣のため、勤めのため、講習その他に外出のため、他に約束がぶつたため、などの原

因がある。又、(四)學校の事故、又は、通知が急なため、又は通知かながつたため、などの原因もあるが、(一)の原因は家庭で、(二)の原因は社會と家庭で、(三)の原因は本人の熱意と注意で、(四)の原因は學校で、夫々努力する事によつて出席率を多くする事ができる「縁なき衆生」は、教師にかに熱意があつても度しがたいものであるから、成功の素として、まず以上の諸點に注意して出席率をたかめるように努力する事が大切である。

〔註〕1)昭和二十三年七月調査、被調査者東京都内の母親。

2)東京都麻布にあり、上流家庭の子弟が多い。

3)品川區戸越にあり、勤勞者の子弟が多い。

4)昭和十七年發行、社會事業研究所、愛育研究所共同調査、

「本邦保育施設に関する調査」三三三頁

5)國立及び公立の幼稚園では、教育基本法(昭和二二年法律第二十五號)第九條によつて、寺院が使用できないと解釋せられる。